

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	フリースマイル大村		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	外出支援の内容が固定化しないように、様々な内容を毎月毎に入れていきます。	カリキュラムが固定化することがないように、運動、科学、文化、芸術、歴史など、様々な観点から外出時のイベントを考案しています	様々な情報をいろんなところから入手できるように、支援の観点から、人、ネット、紙面に目を向ける機会を増やしています。事業所内で、集めた情報を提出し合い、できることを考案し、行ける場所・支援内容の提案・評価を行います。
2	室内ではありますが、十分に体を動かせるスペースが確保されています。	スペースの構造化を行い、プレイルームの中でも体を動かすスペースと落ち着いて過ごすスペースを視覚的にわかりやすく分けています。学習時には別部屋で過ごすなど、子供たちも考えながら	環境設定を行い、各場所における部屋の活用案を提示し、子ども達が考えて使用をしていけるよう、固定化された使用方法を時間帯で変えていく取組も行っていきます。
3	子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討をしています。	児童指導員、保育士、公認心理師、児童発達支援管理責任者など、様々な角度から意見を出し合い、支援方法を決めいています。	さらに充実を図るために、他事業所の理学療法士や作業療法士などにも意見をもらいながら、支援の質を高めています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	トイレが遠い	物理的に遠いため、距離の改善は不可能です。	物理的な改善は難しいため、声掛けを定期的に行い、子ども達が我慢をしないような取組をしています。個人毎に特性もあり、トイレの頻度も変わってくるため、声掛けの頻度を個別で変えながら対応するなど工夫しています。
2	スペースを広く使える反面、死角が多くある	各場所各部屋を固定化された利用方法のみでしようとする と難しさが出てくる時があります。	子ども達の動向に合わせながら、職員の配置を変えています。各個室を使う時には人数に合わせた配置をしますが、時によって職員からの提案を行い、場所の使い方を変更したりしながら、死角ができないように工夫しています。今後より工夫をしながら対応していきます。
3	保護者会が開催されていない	新型コロナウイルス感染症などの流行により、大人数が一同に会する機会を作って来なかった。	少しずつ当たり前の日常が戻りつつある中で、昨年度末に保護者会を兼ねて、子ども達の発表会を行うことができました。今年度も3月20日に西大村小学校の体育館をお借りして保護者会を行う予定になっています。親子スポーツも行う予定です。今後は回数を増やしたり、内容をより充実させていくことも考えています。